



南町小だより

平成29年5月31日

つよく かしく あたたかく

校長 福田 俊彦

「ふれあい月間」・・・ 人と人との関わりを大切に捉えて

校長 福田 俊彦

新緑のもと、子供たちの挨拶の音が響き、学校の日が始まります。開進第二中学校の生徒、保護者、そして、近隣の方々との挨拶も心地よさを届けてくれます。挨拶の声は、心と心の間を温かくするだけでなく、子供の安全にもつながります。挨拶を通して、みんなの子供をみんなで育てること、今後とも宜しく願いをいたします。

さて、6月は今年度1回目の「ふれあい月間」です。ふれあい月間は年3回（6月、11月、2月）あります。南町小学校では、全教育活動を通して、人と関わりを大切に考えています。子供には、人との関わりの中でこそ自分の大切さととともに他の人の大切さを認識する場面が多様にあるからです。

過日、2年生が1年生を案内し、学校探検の学習に取り組んでいました。2年生の1年生を思う気持ちが、言葉遣いや態度から伝わってきます。ひとつひとつの言葉に味わいがあるのです。

「ここは、校長室で、校長先生が仕事をしています。あの写真は、15枚あって、全部校長先生です。」

「ここのシールを貼って。」

「次はどこに行きたい。」

この2年生の姿は、昨年度の経験が根底にあると考えます。1年生の時の2年生の姿に自分を重ね合わせているのでしょう。学校では、このような人と関わる子供たちの活動をしっかりと受け止め、価値付けていくことが重要と考えています。行ったことを具体的に認め、もう少しのところはどのように変えていったらいいのかとも考え、そして、積み重ねていくことです。

人と人との関わりがよりよい状況になれば、困ったことや悩みがあっても、解決への道筋を付けやすくなります。仲間が困っていることに気づき、何とかしようとしみます。自分たちだけで解決できないことは、大人に相談しようとしみます。

この6月の「ふれあい月間」では、全校朝会での話、各学級での子供が主体的に取り組む活動、代表委員会が年間のテーマ「一人一人が支え合い、ありがたいの気持ちを大切に学校」に迫る活動等、自分の大切さと仲間の大切さを認めることができる子供を育てることを全教育活動を通して強く意識していきます。

ご家庭におかれましても、「ふれあい月間」の取り組みについて、お子さんと話す機会をもついただければと思います。子供が自らの生活について考え、判断し、行動する経験は、他の生活場面でも生きて働く力となるはずで、今後とも、皆様のお力添えをお願いいたします。